

風雨が強まってきたら

● **警戒レベルを確認しましょう** 警戒レベルとは、災害の危険度と取るべき避難行動の指針となるものです。市の発令する避難情報や気象庁が発表する気象情報を確認し、適切な避難行動を行いましょう。

警戒レベル	市が発令する避難情報	取るべき行動	気象庁が発表する防災気象情報
警戒レベル 5	緊急安全確保	【命の危険 ただちに安全確保！】	【警戒レベル5相当情報】 大雨特別警報 氾濫発生情報
〈警戒レベル4までに必ず避難！〉			
警戒レベル 4	避難指示	【危険な場所から全員避難】 速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	【警戒レベル4相当情報】 土砂災害発生警報 氾濫危険情報 など
警戒レベル 3	高齢者等避難	【危険な場所から高齢者等は避難】 避難に時間を要する人（ご高齢の方や障害のある方、乳幼児等）とその支援者は避難を開始しましょう。 その他の人は、避難の準備をしましょう。	【警戒レベル3相当情報】 大雨警報 洪水警報 など
警戒レベル 2		【自ら避難行動を確認】 避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報 洪水注意報 氾濫注意情報 など
警戒レベル 1		【災害への心構えを高める】	早期注意情報 (警報の可能性)

● 風水害の場合の避難場所

	避難場所	住所
「土砂災害警戒情報」の発表とともに避難指示を発令する場合の避難場所	保土ヶ谷中学校	釜台町3-1
	岩崎小学校	岩崎町22-1
	西谷地区センター	西谷3-15-1
大雨により河川の氾濫のおそれがある場合の避難場所	保土ヶ谷小学校	神戸町129-4
	ほどがや地区センター	天王町1-21
	イコットハウス	月見台37-1

避難は自らの判断で

大雨や集中豪雨の際の避難は、自らの判断で行うことが大切です。次のような現象が起きたら、避難指示が出されていなくても、危険が迫る前に早めに避難を開始してください。

● こんな現象が起きたら明いうちに早めの避難を

- 河川** 水位が急に増してきたとき、流れが急激に速くなったとき、がけ地沿いの流れがひどく濁ったり、流木や大きな石が混じっているときなど。
- 低地** 道路の側溝などから大量の水が溢れているとき、雨水がはけずに大量に滞水し始めたときなど。
- がけ** がけから小石がパラパラ落下しているとき、斜面に新たな湧水が発生したときなど。

● 避難の方法は？

- 垂直避難** 堅牢な建物の2階以上または近隣の高い建物への避難。
- 水平避難** 避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域外の親戚の家など安全な場所への避難。
- 屋内避難** 夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合は、建物内の安全な場所に退避を。

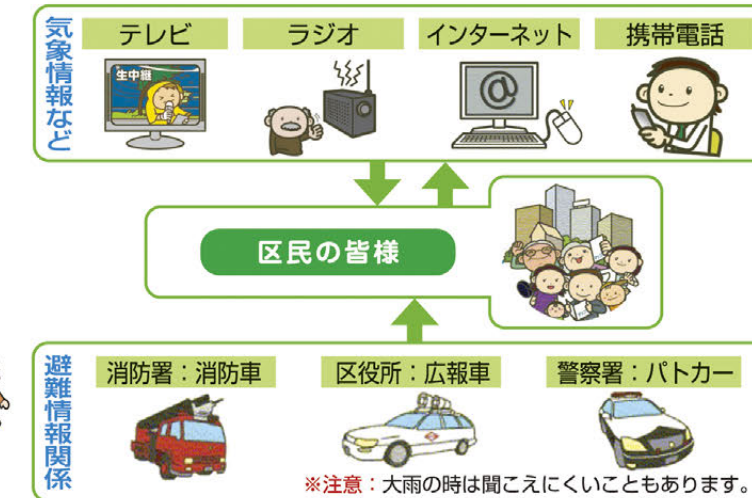
● **避難場所は？** 地震発生時に開設される地域防災拠点とは異なります。また、気象状況によって開設される避難場所は変わります。詳細は保土ヶ谷区ホームページ等でご確認ください。



● こまめな情報収集を

テレビ、ラジオ、インターネットなどから気象情報をこまめに収集しましょう。

◆ 防災情報等はどうやって伝達されるのだろうか？



● 集中豪雨の対策

局地的大雨や集中豪雨は短時間に狭い範囲でまとまった雨を降らせることから、事前に発生を予測することは困難です。テレビやラジオ、インターネットなどで気象情報をあつめ、危険を感じたら早めに対応しましょう。

★気象庁のホームページを使いこなそう

気象庁のホームページでは様々な気象予報が掲載されています。「降水ナウキャスト」は1時間先までの各10分雨量の分布を予想しています。積極的に活用しましょう。

検索 **降水ナウキャスト**



共助

地域で取り組もう！

災害時は地域で助け合うことが非常に大切です。平常時の準備や、災害時の対応などについて心掛け、実践しましょう。

平常時は…



- 地域の危険な場所や安全な場所への避難経路などについて、事前に確認し合ひましょう。
- 避難場所としての自治会館などの一時利用について検討しましょう。
- 災害時要援護者との日頃からの関係づくり（声掛け、見守りなど）を行いましょう。

災害時は…



- 防災情報の把握（土砂災害警戒情報の発表状況や避難指示など）に努めましょう。
- がけ崩れの前兆現象を確認した場合は近所の方々と声を掛け合ひましょう。
- 複数人で声を掛け合って避難しましょう。
- 災害時要援護者への避難支援に努めましょう。